

情動ロボティクスのための人類学： 感情のモデル化における多様性の搭載に向けた文理融合ワークショップ

概要

「情動ロボティクスのための人類学」（英語名：*Anthropology for Affective Robotics* [以下 AfAR]) は人類学者とロボティクス・人工知能・情報学分野のエンジニアとのコラボレーションのためのワークショップを中心としたプラットフォーム形成を目的とする。主催のダニエル・ホワイトと勝野宏史は“Model Emotion”（感情のモデル化）というプロジェクトにおいて人類学・AIそしてウェルビーイングを融合させた研究領域の開拓を行っており、本ワークショップはその一部として文化人類学の視点からロボティクス・AIのシステムと感情の多様性との接点の可能性について探求するものである。

目的

人類学者とエンジニアはそれぞれ異なるアプローチを用いて文化・コミュニケーション・感情のモデル化に取り組んできた。このワークショップはその両者がお互いのアプローチを共有する場となり、特に以下の三点に寄与することを主たる目的とする。

1. 人類学者とエンジニアが文化と感情のモデル化についての最新の理論・方法について意見交換するプラットフォームの構築
2. ロボティクスやAI研究におけるモデル化の精度を高めるための文化の多様性・変動性への認識の向上
3. AIやロボット研究に付随する社会的、倫理的、政治的そして法的関連性について考えるための人間科学と自然科学との持続可能な関係性の確立

参加対象となるグループ

ワークショップはロボティクス・AI・情報学の分野で文化、コミュニケーション、そして特に感情のモデル化に興味を持つ研究者・エンジニア向けに構成されている。主に大学院生、ポスドクの研究者、教員からなる研究室グループでの実施を想定しているが、学部ゼミ生を含む大きなグループや企業の研究チーム、さらには幅広くシミュレーションやシステムの文化的側面や多様性に興味があるグループに対応可能である。

ワークショップの構成

ワークショップの流れは以下の通りとなる

1. ラボのメンバーによる研究プロジェクトの説明。特に、文化や感情のモデル化に際してのアプローチや直面している問題について。
 1. 人類学における文化と感情の基本的な理論について、最新の知見も含めて紹介。
 2. 対話セッション
 - (ア) 人類学者側からロボティクス・AI研究側への質問・指摘・提案
 - (イ) ラボメンバーから人類学者への質問・指摘・提案

ワークショップの内容は参加ラボの研究テーマ（例えば、社会的シグナル、ジェスチャー、表情に焦点を当てた研究など）に則した形での設定が可能で、また同時に幅広い意味での「AI」に焦点を当てたテーマでの開催も可能である。使用言語は日本語と英語に対応している。所要時間は90分、3時間、6時間のセッションなど、柔軟に調整可能である。

ワークショップの詳細についての連絡先

ダニエル・ホワイト (daniel.white@fu-berlin.de)

勝野宏史 (hkatsuno@mail.doshisha.ac.jp).